◇ 数学のあそび ◇

ある町の雑貨屋さんに、灯油のドラム缶が6コ入荷した。それぞれのドラム缶には、灯油が、15、16、18、19、20、31キロリットル入つていた。この売り出しの日に、2人の客が5缶買つて行つた。そのうち、1人は2缶もう1人は3缶買つたのですが、前者の買つた量が後者の½であつた。今、店に残つているのは何キロリットル入の缶でしようか？

統　計　茨　城

1967

11月号

第169号

目　次

茨城県消費実態調査速報（41年）…… 1

県内の産業（その26）……横須賀　弘… 7

第9回茨城県統計大会開催さる…… 9

全国統計大会記……10

県内主要経済指標……12

概　況……12

1. 通貨・手形・株式・百貨店・労働市場……13

2. 消費者物価指数（水戸市）……14

3. 県内金融機関別預金残高……15

4. 〃　貸出残高……15

5. 産業別推計労働者数・労働時間・平均給与額……16

6. 主要品目の都市別小売価格（平均）……18

7. 茨城県鉱工業生産指数……19

統計漫歩（29）……田中二三四…20

〔11月の思考〕……横須賀弘…21

統計臨時ニュース……21

速　　報

茨城県消費実態調査結果

(41年9～11月)

1. 家計収支の概況

昭和41年9月～11月における県内の農林漁家以外の世帯の家計収支は、要約すると次のとおりである。

(1) 勤労者世帯

勤労者世帯の実収入は、平均1か月当たり58,901円で、39年同期に比べて25.6%増加した。しかし、実収入から控除される税金などの非消費支出は6.001円で57.3%も増加しているので、非消費支出を差し引いた可処分所得（手取り収入）は52,900円となり伸び率も22.8%と実収入の伸びを下回つている。

消費支出（生活費）は、平均1カ月当たり49,107円で39年同期に比べて25.5%と可処分所得の伸びを上回る増加を示している。これを内訳でみると、雑費の37.3%増をはじめ、光熱費、住居費などがそれぞれ27.5%、26.5%も増加し、被服費も22.7%の伸びを示したためであるが食料費は14.2%の増加にとどまつた。このため，エンゲル係数は39年同期の37.3%から34.0%へと低下している。

家計収支のバランスをみると、消費支出の伸びが可処分所得の伸びを上回つたため、平均消費性向は39年同期の90.9%から92.8%へと上昇した。このため、黒字は3,793円となり39年同期に比べて3.7%の減少となつたが、黒字のうち貯蓄純増は2,208円で3倍以上という大幅な増加を示している。また、平均貯蓄性向もこれを反映して1.5%から4.2%と大きく伸びている。

家計収支に大きな影響を及ぼしている消費者物価の動きをみると、この期間に10.4%も上昇しているので物価の上昇分を調整してみると、実収入の伸びは13.8%、可処分所得は11.3%、消費支出は13.7%となる。更にこれを年率でみると、実収入は6.7%可処分所得5.5%、消費支出6.6%の増加となる。

なお、国で実施している家計調査の結果では、全国平均で実収入が59,748円、可処分所得54,309円、消費支出49,825円となつており、本県の場合

表1　家計収支総括表（勤労者世帯）

区分		39年9～11月平均	41年9～11月平均	対前回増加率	同実質増加率
実収入	(1)	46,882	58,901	125.6	113.8
非消費支出	(2)	3,816	6,001	157.3	142.5
可処分所得	(3)	43,066	52,900	122.8	111.3
消費支出	(4)	39,129	49,107	125.5	113.7
食料費	(5)	14,610	16,685	114.2	104.3
住居費	(6)	3,875	4,903	126.5	115.7
光熱費	(7)	1,698	2,165	127.5	124.9
被服費	(8)	4,502	5,525	122.7	115.2
雑費	(9)	14,444	19,829	137.3	118.7
黒字	(10)	3,937	3,793	96.3	87.3
黒字率	(11)	9.1	7.2	79.1	—
貯蓄純増	(12)	661	2,208	334.0	302.6
平均消費性向	(13)	90.9	92.8	102.1	—
平均貯蓄性向	(14)	1.5	4.2	280.0	—
エンゲル係数	(15)	37.3	34.0	91.2	—

はいずれも全国平均を下回つている。

(2) 全 世 帯

勤労者世帯と一般世帯とを合せた全世帯の消費支出は、平均1ヵ月当たり48,334円となり、39年同期に比べて16.8%の増加となつた。この伸びを5大費目別にみると、雑費が30.3%と最も大きく、光熱費の23.0%、住居費13.9%などがこれに次いで高いが、食料費、被服費などはそれぞれ7.8%7.0%と比較的低い伸びを示している。

勤労者世帯の伸び率と比べてみると、消費支出全体でも、費目別でもいずれも低く、とくに被服費は目立つて低いが、これは一般世帯（商人・職人など）での伸びが低かつたためである。このような影響もあつてエンゲル係数は36.1%と勤労者世帯だけの場合より高く、39年同期の38.8%に対する低下割合も低くなつている。

物価上昇分を調整した実質増加率でみると、消費支出は5.8%の増加となるが、年率では2.9%の伸びである。

2. 勤労者世帯の家計収支

(1) 実収入と消費支出

勤労者世帯の実収入は、平均1ヵ月当たり58,901円であるが、そのうち世帯主の定期収入は41,840円で71.0%を占めている。また、臨時収入は3,755円（6.4%）となつており、これに副業収入を加えた世帯主収入は46,146円(78.3%)となる。これを39年同期に比べてみると、実収入では25.6%の増加となつているが、これは世帯主の臨時収入や、妻、その他の世帯員の収入などが大幅に増加したためで、世帯主の定期収入は13.4%の伸びにとどまつている。

消費支出は、平均1ヵ月当たり49,107円であるが、これを5大費目に分けてみると、雑費が19,829円で全体の40.4%を占めて最も大きい。これに次いで食料費の34.0%が大きく、被服費、住居費および光熱費などはそれぞれ11.2%、10.0%、4.4%となつている。雑費のなかで大きいものは、こずかいなどのその他の雑費の9.2%、交際費7.4%、教養娯楽費6.6%など、食料費では米類の6.1%などである。また、食料費を主食、副食品、し好食品、外食の4貴目に分けてみると、副食品が16.8%、主食7.7%、し好食品7.2%、外食の2.3%となり、副食品が食料費の半分近くを占めている。

39年同期に比べてみると、5大費目では雑費などの伸びが大きく、食料費の伸びが小さいことは前述のとおりであるが、費目別にみると住宅の設備修繕費が2倍以上も増加しているのが大きく、交通通信費の66.6%、教育費の61.6%増などが目立つている。

(2) 現金実収入階級別

現金実収入階級別でみると、実収入の4万円台の世帯が一番多く全体の21.1%を占め、5万円台の20.6%、6万円台の16.9%などがこれに続き、これらの階層だけで半数以上を占めている。そこで、これらの階層の世帯について家計収支のバランスをみると、平均消費性向は4万円台の世帯で97.2%、5万円台88.8%、6万円台87.9%となり、4万円台の世帯では可処分所得の殆んどが消費支出にまわされているわけである。また、黒字も実収入が6万円台の世帯では6,808円、5万円台5,689円であるが、4万円台では1,135円、黒字率もそれぞれ12.1%、11.2%、2.8%となつており、4万円台が極端に低い。このため貯蓄も6万円台と5万円台の世帯では増加しているが、4万円台では減少している。

(3) 世帯人員数別

世帯人員数別でみると、4人世帯が36.6%と最も多く、3人世帯の24.6%5人世帯16.5%が、これにつづき、これらの世帯だけで全体の8割近くを占めている。これらの階層の世帯について家計収支のバランスをみると、平均消費性向は4人世帯が95.9%で最も高く、3人世帯の90.6%、5の世帯人89.2%の順となつている。また平均貯蓄性向は3人世帯が9.2%、5人世帯4.4%、4人世帯0.3%となつており4人世帯が極端に低い。

(4) 世帯主の年令階級別

世帯主の年令でみると、35才～39才の階層が20.8%、30才～34才が18.8%40才～44才が17.6%を占め、これらの世帯だけで半数以上を占めている。これらの階層について家計収支のバランスをみると、平均消費性向は30才～34才が92.2%、40才～44才が89.6%35才～39才が85.9%と30才～34才の階層が高い。また、平均貯蓄性向では35才～39才が10.9%、40才～44才が2.7%、30才～34才が2.0%となつている。

表 2　　家計収支の推移（勤労者世帯）

（単位円、%）

	39 年	41 年	対前回増加率 (41/39)		39 年	41 年	対前回増加率 (41/39)
世帯数	322	255	—	（家賃・地代）	877	1,218	138.9
調整集計世帯数	412	1,157	—	（設備・修繕費）	604	1,284	212.6
世帯人員数	4.00	4.06	—	（家具・什器）	2,287	2,147	93.9
有業人員数	1.55	1.64	—	光熱費	1,698	2,165	127.5
世帯主の年令	39.7	41.9	—	（電気・ガス代）	818	1,143	139.7
				被服費	4,502	5,525	122.7
実収入	46,882	58,901	125.6	（衣料費）	3,325	4,122	124.0
勤め先収入	42,906	53,776	125.3	雑費	14,444	19,829	137.3
世帯主収入	38,669	46,146	119.3	（保健医療費）	848	1,197	141.2
（定期）	36,889	41,840	113.4	（理容衛生費）	1,108	1,426	128.7
（臨時）	1,686	3,755	222.7	（交通通信費）	975	1,624	166.6
妻の収入	2,204	3,639	165.1	（教育費）	790	1,277	161.6
他の世帯員収入	2,033	3,991	196.3	（教養娯楽費）	2,952	3,223	109.2
事業・内職収入	1,672	1,497	89.5	（交際費）	2,820	3,641	129.1
他の実収入	2,304	3,628	157.5	非消費支出	3,816	6,001	157.3
（財産収入）	446	458	102.7	（勤労所得税）	719	903	125.6
（社会保障給付）	466	979	219.5	（その他の税）	856	1,386	161.9
実収入以外の収入	9,199	11,781	128.1	（社会保障費）	2,134	3,608	169.1
（貯金引出）	6,094	7,862	129.0	実支出以外の支出	11,922	15,279	128.2
（保険取金）	118	240	203.4	（貯金）	5,275	7,922	150.2
（借入金）	709	243	34.3	（保険掛金）	1,598	2,388	149.4
（月賦・掛買）	2,075	2,803	135.1	（借金返済）	855	1,145	133.9
				（月賦・掛買払）	2,902	3,697	127.4
実支出	42,945	55,108	128.3				
消費支出	39,129	49,107	125.5	可処分所得	43,066	52,900	122.8
食料費	14,610	16,685	114.2	黒字	3,937	3,793	96.3
主食	3,388	3,785	111.7	黒字率	9.1	7.2	79.1
副食品	7,136	8,224	115.2	貯蓄純増	661	2,208	334.0
し好食品	3,196	3,533	110.5	平均消費性向	90.9	92.8	102.1
外食	890	1,143	128.4	平均貯蓄性向	1.5	4.2	280.0
住居費	3,875	4,903	126.5	エンゲル係数	37.3	34.0	91.2

表 3　　家計収支のバランス（勤務者世帯）

現金実収入階級別

	可処分所得	消費支出	黒字	黒字率	貯蓄純増	平均消費性向	平均貯蓄性向	エンゲル係数
	円	円	円	%	円	%	%	
平均	52,900	49,107	3,793	7.2	2,208	92.8	4.2	34.0
～ 9,999	—	—	—	—	—	—	—	—
10,000 ～ 19,999	17,295	16,508	787	4.6	2,823	95.4	16.3	54.2
20,000 ～ 29,999	24,705	23,975	730	3.0	△ 766	97.0	△ 3.1	42.9
30,000 ～ 39,999	32,717	33,233	△ 516	△ 15.8	△ 1,435	101.6	△ 4.4	40.5
40,000 ～ 49,999	41,129	39,994	1,135	2.8	△ 230	97.2	△ 0.6	36.9
50,000 ～ 59,999	50,906	45,217	5,689	11.2	4,478	88.8	8.8	36.4
60,000 ～ 69,999	56,145	49,337	6,808	12.1	5,459	87.9	9.7	35.2
70,000 ～ 79,999	67,628	64,045	2,583	3.8	2,765	96.2	4.1	32.1
80,000 ～ 89,999	74,545	64,473	10,072	13.5	4,279	86.5	5.7	30.5
90,000 ～ 99,999	80,391	69,530	10,861	13.5	5,963	86.5	7.4	29.7
100,000 ～	97,656	94,212	33,444	34.2	△ 251	96.5	△ 0.3	24.9

世帯人員数別

2 人	40,270	41,240	△ 970	—	639	—	1.6	27.4
3	47,741	43,271	4,470	9.4	4,376	90.6	9.2	31.2
4	53,502	51,320	2,182	4.4	168	95.9	0.3	33.2
5	57,529	51,315	6,214	10.8	2,527	89.2	4.4	37.3
6	66,720	59,442	7,278	10.9	5,900	89.1	8.8	37.5
7	65,933	55,036	10,897	16.5	3,879	83.5	5.9	44.7
8 ～	55,239	51,499	3,740	6.8	1,041	93.2	1.9	42.1

世帯主年令階級別

～ 24才	38,836	32,104	4,732	12.8	3,753	87.2	10.2	33.8
25 ～ 29	42,996	40,184	2,812	6.5	5,056	93.5	11.8	34.1
30 ～ 34	42,906	39,544	3,362	7.8	875	92.2	2.0	36.9
35 ～ 39	55,593	47,769	7,824	14.1	6,053	85.9	10.9	34.7
40 ～ 44	55,342	49,584	5,758	10.4	1,494	89.6	2.7	36.3
45 ～ 49	59,718	58,920	798	1.3	△ 1,312	98.7	—	36.6
50 ～ 54	62,065	61,053	1,012	1.6	550	98.4	0.9	30.4
55 ～ 59	51,025	47,747	3,278	6.4	7,371	93.6	14.4	29.1
60 ～ 64	53,680	49,290	4,390	8.2	3,485	91.8	6.5	30.9
65 ～	66,144	79,477	△13,333	—	△15,562	—	—	22.1

3. 全世帯の消費支出

(1) 概　況

全世帯の消費支出は、平均1か月当、48,334円であるが、これを5大費目に分けてみると、雑費が18,844円で全体の39.0%を占め最も多い。次に多いものは食料費で17,297円35.8%となつており、生活費の約75%が食料費と雑費で占められている。また、被服費は5,457円（11.3%）住居費4,398円（9.1%）光熱費2,338円（4.8%）となつている。雑費のなかで多いものは、勤労者世帯だけの場合に同じように、交際費（7.6%）その他の雑費（7.5%）、教養娯楽費（6.4%）など、食料費のなかでは米類の6.6%などである。

39年同期に比べてみると、伸びの大きいものは、雑費、光熱費、住居費などであるが、費目別にみると雑費で損害保険料が3倍以上、住居費で水道料が2倍以上と大きく伸びているのが目立つている。このほか、雑費で仕送り金、負担費など住居費では家賃、地代、設備、修繕費、食料費では飲料などの伸びが大きい。

表4　家計収支の推移（全世帯）

	39年	41年	対前回増加率(41/39)		39年	41年	対前回増加率(41/39)
世帯数	535	451		住居費	3,861	4,398	113.9
調整集計世帯数	715	1,971		家賃・地代	711	1,177	165.5
世帯人員数	4.31	4.26		設備・修繕費	619	983	158.8
有業人員数	1.84	1.87		水道料	112	255	227.7
世帯主の年令	43.0	44.9		家具・什器	2,419	1,983	82.0
				光熱費	1,901	2,338	123.0
消費支出総額	41,368	48,334	116.8	電気・ガス代	911	1,254	137.7
食料費	16,046	17,297	107.8	その他の光熱費	990	1,084	109.5
主食	3,779	3,998	105.8	被服費	5,102	5,457	107.0
米類	3,042	3,185	104.7	衣料費	3,832	4,118	107.5
麦・雑穀類	33	37	112.1	身のまわり品その他	1,270	1,339	105.4
パン類	302	311	103.0	雑費	14,458	18,844	130.3
その他	402	465	115.7	保健医療費	1,020	1,242	121.8
副食品	7,883	8,496	107.8	理容衛生費	1,120	1,463	130.6
生鮮魚介類	1,149	1,295	112.7	交通通信費	1,117	1,527	136.7
塩干魚介類	343	376	109.6	教育費	1,062	1,206	113.6
肉類	1,125	1,149	102.1	文房具費	150	165	110.0
乳卵類	1,452	1,623	111.8	教養娯楽費	2,935	3,117	106.2
野菜類	1,148	1,275	111.1	交際費	2,707	3,670	135.6
乾物・海草類	273	330	120.9	たばこ	557	626	112.4
加工食品	1,299	1,360	104.7	仕送金	787	1,365	173.4
調味料	1,094	1,088	99.5	負担費	374	567	151.6
し好食品	3,473	3,734	107.5	損害保険料	73	266	364.4
菓子類	1,304	1,197	91.8	その他	2,556	3,630	142.0
果物類	958	1,130	118.0				
酒類	849	836	98.5	4人換算消費支出額	39,900	45,269	113.5
飲料	362	571	157.7				
外食	911	1,069	117.3	エンゲル係数	38.8	36.1	—

(2) 世帯主の職業別世帯主の職業でみると、商人、職人の世帯が27.6%、官公職員が21.8%、常用労務者と民間職員がそれぞれ18.5%と、これらの職業の世帯だけで全体の86.4%を占めている。そこでこれらの職業の世帯について消費支出額をみると、官公職員は53,075円、民間職員50,001円、商人、職人43,757円、常用労務者43,523円の順で事務系が高い。エンゲル係数は官公職員、民間職員のそれぞれ15.3%、33.5%に対して、常用労務者、商人、職人はそれぞれ38.1%、40.2%と高くなつている。また、39年同期に対する消費支出の伸び率をみると、官公職員が26.5%、常用労務者25.6%、民間職員20.3%とそれぞれ20%以上の伸びをみせているが、商人、職人は9.2%と低い伸び率にとどまつている。

表 5 世帯主の職業別消費支出額、エンゲル係数等（全世帯）

区分	消費支出額 39年	41年	増加率	エンゲル係数（41年）	4人換算消費支出額(41年)
平均	41,368	48,334	116.8	35.8	46,885
常用労務者	34.664	43,523	125.6	38.1	43,113
臨時日雇労務者	13,683	—	—	—	—
民間職員	41,578	50,001	120.3	33.5	49,354
官公職員	41,950	53,075	126.5	31.5	53,139
商人・職人	40,075	43,757	109.2	40.2	41,121
個人経営者	61,559	66,889	108.7	39.9	50,070
法人経営者	66,888	80,515	120.4	33.6	71,290
自由業者	87,058	37,782	43.4	37.3	37,919
その他	41,447	58,621	141.4	25.5	66,517
無職	37,939	41,419	109.2	33.6	45,525

(3) 地域別

調査世帯を県北、鹿行、県南および県西の4地域に分けてみると、消費支出額は県平均を100とした場合県南が111.0%、県西100.6%、県北96.4%、鹿行93.9%の順となり、県南が最も高い。県南は5大費目のどれもが県平均よりも高く、特に住居費は28.9%、被服費は20.4%も高い。また、その他の地域で県平均を上回るものは、光熱費で鹿行、県西がともに102.4%、雑費で鹿行の101.4%などである。このように、鹿行地域では光熱費、雑費が県平均より高いが、住居費、被服費はそれぞれ80.0%、82.4%と低くなつている。

消費支出額の内訳を構成比でみると、どの地域でも雑費の割合が高いが特に鹿行では42.7%となつており、最も高い。また、食料費（エンゲル系数）は県西、県北のそれぞれ37.3%、36.7%と対し、鹿行、県南は34.9%、34.1%とやや低くなつている。

表 6 地域別消費支出の県平均対比および構成比（全世帯）

区分		平均	県北	鹿行	県南	県西
消費支出構成比	総額	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	食料費	35.8	36.1	34.9	34.1	37.3
	住居 〃	9.1	8.6	7.8	10.6	9.0
	光熱 〃	4.8	4.8	5.3	4.8	4.9
	被服 〃	11.3	11.2	9.9	12.2	10.7
	雑 〃	39.0	39.3	42.1	38.3	38.1
消費支出の県平均対比	総額	100.0	96.4	93.9	111.0	100.6
	食料費	100.0	97.2	97.7	105.7	104.9
	住居 〃	100.0	91.6	80.0	128.9	99.7
	光熱 〃	100.0	95.0	102.4	111.3	102.4
	被服 〃	100.0	95.8	82.4	120.4	94.9
	雑 〃	100.0	67.3	101.4	109.0	98.2

県内の産業

（その26）

準戦時における経済の推移

昭和6年から12年にかけての県内の産業は前述のとおりでありますが、次に県内生産活動を当時の工業統計からみてみよう。

昭和6年の県内の工場数は818工場、従業者数12,233人、生産額31,498千円であり、この産業別の詳細は資料の関係で不明でありますので、国内の昭和17/昭和6年対比と比較をみるために昭和17年/昭和7年の数値で両者をみてみよう。しかし、昭和7年は6年にくらべ786工場で32工場の減少、従業者は11,609人で1,624人の減少、生産額においては29,490千円で2,008千円の減少と生産活動の低下があり、この減少傾向は8年まで続き、8年下期に至り昭和6年の水準に達したのであります。こうした県内の景気動向に一応留意してみてみましょう。

まず国における事業所の増加をみますと、昭和6年の6万4千工場が12年には10万5千工場と64.9％の増加率をみせたのであります。これは従業者数、生産額のそれぞれの増加率77.5％、216.4名に比べますと少ないのでありますが、工場数の増加率についてみるとこれまでのどの時期よりもはるかに多かつたのであります。と同時にこの期間の事業所の動きの背後に企業の集中、独占化が進められたという大きな特色とされております。

第1表　産業別工場数

産業別	工場数		工場構成比		工場数増加指数
	昭6年	昭12年	昭6年	昭12年	昭和6年＝100.0
合計	63,938	105,349	100.0	100.0	164.9
食料品	12,567	16,518	19.7	15.7	131.4
紡織	23,306	33,192	36.5	31.5	142.4
製材木製品	5,404	10,191	8.5	9.7	186.8
印刷製本	2,948	3,857	4.6	3.7	130.8
窯業・土石	3,495	5,542	5.5	5.3	158.6
化学	3,468	5,747	5.4	5.5	165.7
金属	4,161	10,091	6.5	9.6	242.5
機械器具	5,784	14,497	9.0	13.8	250.6
その他	2,805	5,714	4.4	5.4	203.7

第1表から紡織工業が依然として最大の部門でありますが事業所数、従業者数、生産額の増加率が少ないためこの期間に急速に比重を低下させ、従業者構成比をみると昭和12年では36.8％と大きく50％を割り、生産額でも30％を割つたのであります。次いで食料品工業では、工場数で3.1％、

第2表　産業別従業者数

産業別	従業者数		工場構成比		工場数増加指数
	昭6	昭12	昭6	昭12	昭6昭12（＝100）
	人				
合計	1,780,000	3,158,754	100.0	100.0	177.5
食料品	150,155	205,589	8.4	6.5	136.9
紡織	979,415	1,161,596	55.0	36.8	118.6
製材木製品	64,615	120,679	3.6	3.8	186.8
印刷製本	59,818	74,304	3.4	2.4	124.2
窯業・土石	66,435	132,730	3.7	4.2	199.8
化学	141,557	354,672	8.5	11.2	250.6
金属	99,198	349,348	5.6	11.1	352.2
機械器具	177,072	661,743	9.9	20.9	373.7
その他	41,735	98,093	2.3	3.1	235.0

従業者数で37％の増加でありますが、その増加率も窯業、土石工業に次いで低位であつたのであります。この期間に企業の生産集中度の著しかつたのも当該産業であり、とくに製糖、製粉、ビール産業にそれが著しかつたが、他産業にくらべ圧倒的に零細企業の多いの特色でありましよう。また、窯業、土石部門は上述2産業にくらべ重化学工業部門について活発な生産がみられたのでありますが、これは昭和6年以降の陶磁器類の輸出の増大、セメント工業の需要増など当時の大隆進出を計つていた、わが国外交政策に負うところが大であつたのであります。

これらの産業の増加率にくら

べ、機械器具工業のこの期間の拡大は極めて著しく、6年間に工場数は2.5倍、従業者数は3.7倍、生産額は5.1倍となり、今までにない大きな伸長がみられたのであります。これは昭和6年の満州事変勃発、昭和12年7月の中日戦争等当時の国内経済は着々準戦時体制がとられ、それにともなう軍事費支出の増額がみられ、その結果企業間において産業活動か活発化しこの部門の市場を拡大し、機械工業すべての部門の発展をみたのであります。

前述の国内生産活動にくらべ県内の生産活動をみると県内工場のなかで最もウエイトの高い産業は食料品工業であり、363工場で46.2%を占め、

第4表　産業別県内工場数

産業別	工場数		工場構成比		工場数増加指数
	昭7	昭12	昭7	昭12	昭12（昭7＝100）
			%	%	%
合計	786	958	100.0	100.0	121.9
食料品	363	391	46.2	40.8	107.7
紡織	117	119	14.9	12.4	101.7
製材木製品	120	173	15.3	18.1	144.2
印刷製本	20	23	2.5	2.4	115.0
窯業・土石	34	40	4.3	4.2	117.6
化学	15	74	1.9	7.7	493.3
金属	11	6	1.4	0.6	54.5
機械器具	29	51	3.7	5.3	175.9
その他	77	81	10.0	8.5	105.2

第3表　産業別生産額

産業別	生産額（100万円）		工場構成比		工場数増加指数
	昭6	昭12	昭6	昭12	昭12（昭6＝100）
合計	5,159.8	16,327.8	100.0	100.0	316.4
食料品	837.8	1,474.1	16.2	9.0	175.9
紡織	2,003.5	4,459.7	38.8	27.3	222.6
製材木製品	149.6	383.8	2.9	2.4	256.6
印刷製本	176.7	273.2	3.4	1.7	154.6
窯業・土石	155.5	443.9	3.0	2.7	285.5
化学	821.8	2,900.9	15.9	17.8	353.0
金属	479.0	3,727.5	9.3	22.8	778.2
機械器具	456.3	2,636.0	8.8	14.3	511.9
その他	79.9	32.8	1.5	2.0	411.1

次いで紡織工業の117工場で14.9%、印刷製本工業が2.5%の順となり、工場の分布をみてもこれら軽工業部門で実に93.2%を占めているのであります。これが昭和12年には軽工業部門85.0%、重化学工業部門15%と工場数では昭和7年にくらべ重化学工業部門で8.2ポイントの増加をみたのであります。これに対し生産額では昭和6年の重化学工業部門は全生産額の33.7%、昭和12年は69.9%と実に36.2ポイントの増加がみられたのであります。したがつて、従業者数も昭和12年は24,966人で、昭和6年の11,609人にくらべ13,400人の増加で2倍以上の拡大がみられたのであります。

第5表　工場数、従業者数、生産額の推移

	工場数		従業者数		生産額		構成比 工場数		構成比 従業者数		構成比 生産額	
	昭7	昭12	昭7	昭12	昭7	昭12	昭7	昭12	昭1	昭12	昭7	昭12
			人	人	千円	千円	%	%	%	%	%	%
県計	786	958	11,609	24,966	29,490	115,776	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
軽工業部門	731	814	9,483	11,082	19,564	35,953	93.2	85.0	81.7	44.4	66.3	31.1
重化学工業所	55	144	2,126	20,952	9,926	79,823	6.8	15.0	18.3	55.6	33.7	68.9

統計マンの祭典

第9回茨城県統計大会開催さる

第9回茨城県統計大会は茨城県及び茨城県統計協会主催で、10月11日、水戸市千波町県民文化センターに於いて盛大に開催された。

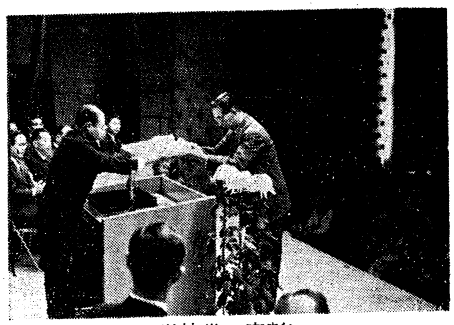
会場の小ホール前には、午前8時半特設受付場が作られ、三三五五集まる　県下各市町村の統計マンに、係員一同てんてこ舞の応対が始まつた。大会は午前9時半、統計課長の開会のあいさつで始まり、知事代理の青鹿副知事が、県の発展の礎となるのは、その重要度からみて統計をおいて外にない、日頃大変御労されている皆様の力に期待するものが大きいと力強くあいさつし、だだちに表彰式に進んだ。

ぎつしりつまつた会場は、年一度の大会にふさわしく熱気がこもり、長年にわたつて、県統計界の発展に陰ながらつくした方々が次々と表彰されると、大会の雰囲気は高まつた。

<副知事あいさつ>

やがて、第18回茨城県統計グラフコンクール入選者の表彰になつて、日立市助川小学校の福田佐栄子さんの小さな体があらわれ、その愛らしい動作に、賞状をわたす青鹿副知事をはじめ来賓各位がニコニコすると、会場はそれまでの緊張がほぐれてなごやかになつた。

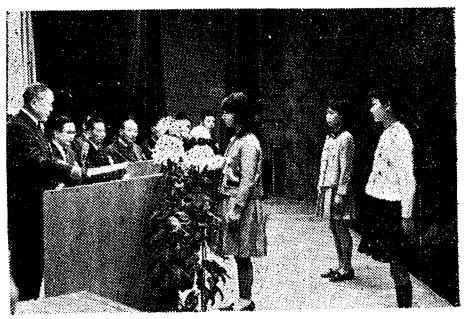
今年度の統計グラフコンクールでは、毎年上位をしめていた結城の中学校にかわつて旭中学校の台頭が特筆されるが、学校賞を受賞する校長先生の顔にも喜びの生気があふれていた。



<学校賞の表彰>

来賓祝辞のあと祝電が披露され、受彰者を代表して、水戸市の調査員渡辺公策氏、旭中学の田崎朝子さんの謝辞があつた。

次に、「われわれは、の郷土茨城は、いま、めざましい躍進をしようとしている。統計がこの躍進の指針として各方面に広く利用されていることは、われわれ統計関係者にとつて大きな誇りであり喜びであるとともに責任の重大さを痛感する。



<統計グラフコンクール入選者表彰>

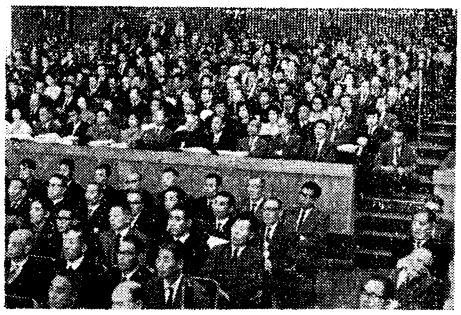
統計法施行20周年記念第9回茨城県統計大会にあたり、さらに決意をあらたにしてこの重責を果すため努力することを誓い、ここにつぎのとおり決議する。

1.　われわれは、統計に寄せる社会の要請と期待にこたえるため、いつそう統計知識の研さんにつとめる。

1.　われわれは正確な統計を迅速に作成し統計

利用の向上につとめる。

1. われわれは、統計を通じ郷土の発展と県民相互の理解に貢献し、統計人として誇りを高めるようつとめる。」以上の宣言文を桂村加藤木総務課長が高らかに読み上げ、ついで万才三唱があつて、意義深い大会の終了となつた。その後、アトラクションの舞踊を見たり、会場前に展示されたグラフコンクールの入選作品に見入つたり、参集者の胸にこもつた大会の熱気は少しずつ散つていつた。



<満員の会場>

<グラフ展>

全国統計大会記

10月25日広島市で開催

第18回全国統計大会は、秋晴れにめぐまれた10月25日、全国統計協会連合会広島県、広島市、広島県統計協会主催、山口、岡山、島根、鳥取各県後援のもとに、中央各省庁その他関係各団体の協賛をえて、広島市公会堂に、全国から集まつた約2千人の統計マンが参集して、はなやかに開催された。

大会場にあてられた公会堂は、広島市の中心部にあつて、全世界に知られた原爆受難の爆心地を見事に整地して作られて平和公園の中にある。原爆の恐ろしさと、まちがつた原子力の使用がいかに非人間的なものであるかを訴える原爆記念館、原爆資料館とならんで、平和を祈念する市民のいこいの場らしく、清楚な建物である。

<大会場広島市公会堂>

大会は、午前8時半の受付と同時に、封切られた。9時半、主催者の開会のあいさつのあと、ただちに、表彰式に移つた。長い間統計マンとして統計の発展に寄与した功績をたたえられる人、あるいは、研究、調査の企画、改善に努力し社会に有益な資料を提出して多くの成果をあげた人等、それぞれ各分野で皆エキスパートとして統計の前進に功績のあつた人々に対して、統計マンとして最高の栄誉である大内賞をはじめ、中央各省庁、全国統計協会連合会からの表彰が、約2千人に及ぶ日本の統計マンの万来の拍手のうちに、おごそかに行なわれた。

本県関係では、すでに本誌で報じたが、境町役場の佐野貞雄氏、県統計課の軍司利兵衛氏の二氏が行政管理庁長官賞を、県統計課大録義行氏が全統連表彰をそれぞれ授与された。

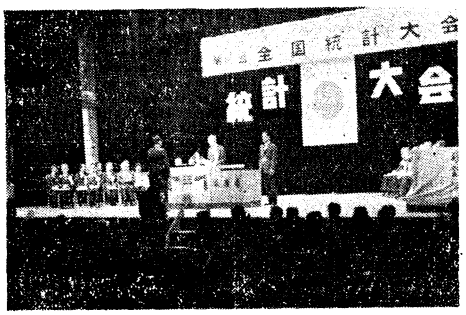
また、茨城県に対して、法人企業投資予測調査、毎月勤労統計調査、教育統計調査の成績をみとめられ、それぞれ、企画庁長官、労働大臣、文部大臣から表彰状が授与された。

表彰式の最後をかざつたのは、毎年、統計教育の普及向上を目的として行なわれている統計グラフコンクールの入選者表彰であつた。統計グラフは年々質の向上が著るしく、とくに、第1部、第2部の小、中学生の作品は、レベルが高くなつている。入選者の作品は、原爆資料館ロビーに展示

され、多数の人々が感心して見入つていた。

本県では、旭中学校の田崎朝子さんが第2部で7席山川小学校の黒須篤美さん、田村早苗さんの作品が9席に入選した。

表彰の終つたあと祝辞や祝電があつて、受賞者を代表して大内賞を受賞した大島健蔵氏、香川県の小学生統計グラフコンクール特選の村北昌代さんから感激にみちた謝辞があつた。

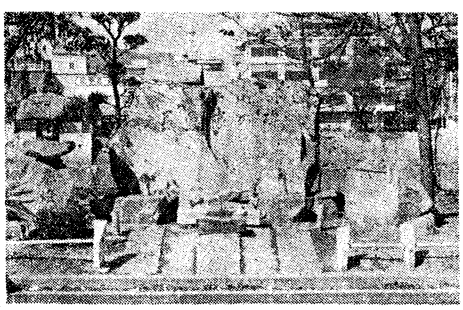


<大会々場>

次に、議事に入り、「地方統計の機械化と地方分査の合理的編成をすすめられたい」との議題を岡山県統計課長が説明し、議題審議委員を8名指名付託して、午後3時からの審議委員長の経過報告ののち採決に入り、満場一致で採択された。

次いで、研究発表に移り、四国ブロック、九州ブロックの代表から、高知市開発課西本雅彦氏の「調査資料の台帳的保管と誤差のチエツクについて」福岡市統計課仲原剛氏の「福岡市の都市圏人口について」と題してそれぞれ研究発表があり、統計の改善、普及向上、利用がまだ必要であると論じた。ここで午前の部を終了。

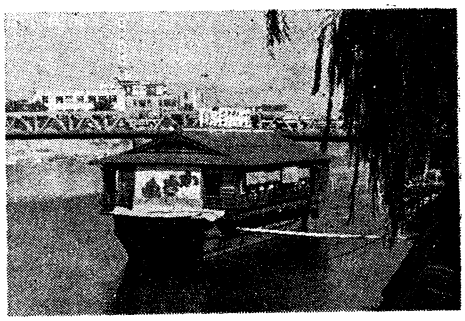
昼食休憩の時間を利用して会場付近を散歩した。爆心地とはいえ、被災のあとは全くみられない平和な公園で、三方を川に囲まれた水の都の中心部のたたずまいであつた。それでも、川岸に建てられた「義勇隊の碑」等の慰霊碑にきざまれた中学生、女学生の名前の1人1人が、静かに平和な世界を祈願し、訪ずれる人に私たちの受難をふたたびくりかえすことのないよう呼びかけているようであつた。



<義勇隊の碑>

会場の隣の原爆記念館には、原爆の恐ろしさを物語るかずかずが展示され、訪ずれる人の絶え間がなかつた。

午後は、中国新聞社編集局長、森脇幸次氏の司会で、シンポジユームが行なわれた。内藤勝氏、北林琢男氏、伊大知良太郎氏、斉藤金一郎氏、の意見に対する質問の形で進行をすすめ、活発な応答があつたが、意見をのべた諸氏との間に若干のくいちがいが感じられた。しかし、地方統計の、重要度の著るしい高まりと、充実が強く要望されることで意志の統一をみ、いちおうの成果をあげたことは有意義なシンポジニームであつたといえよう。



<かき船>

なお、次回開催地である岐阜県企画部長の歓迎のあいさつがあり、つづいて、大会の最後をかざるにふさわしく、東京大学名誉教授有沢広已氏の「日本経済の明暗」と題して記念講演があつた。日本経済の二重構造を鋭くついた氏の見解は聞く人々に大きな感銘を与え有意義であつた。

定刻4時、有沢広已氏の音頭で万才三唱、大会は、主催者の洗練された運営によつて無事盛会のうちに終了した。

夕闇せまる広島の空は、全国統計大会の成功をことほぐかのように広島の川々の水面にしつとりと映つていた。有名な「かき」を食べさせる船が印象的に水面の美しさを一つそう引きたてていた。

来年の岐阜大会においても、日本統計の前進が確認できると期待して筆をおく。

県内主要経済指標

概　況

1. 銀行券　手形交換高

銀行券は、月央以降大幅な米代金の支払に加え、期末決算資金等の需要が強かつたため、月中663百万円の発行超となつた。

手形交換高は、枚数、金額とも前年を上回り、一方不渡手形は前年を下回り落着きを示している。

2. 県内百貨売上高

百貨店の売上高は、工業部門の好況、農村部の農作による米代金の大幅流入等によつて小売商況も全般的に好調など、一般的に好材料がそろつて、前年比39%増を示した。

3. 労働市場

〔求職〕　新規求職者は3,414人で前年同月（3,358人）より5.3%増を示したが、前月よりやや下回つた。

〔求人〕　新規求人は、6,284人で前年同月、前月とややおちつきをみせ、常用求人も同様横ばいの傾向を示している。

4. 消費者物価指数（水戸市）　（40年＝100）

9月の水戸市消費者物価指数は、総合で108.8となり前月にくらべ2.6%の上昇を示した。

上昇の要因は、前月につづく野菜、生鮮魚介、乳卵、肉類の値上がりと衣料などの値上がりである。

費目別にみても、前月にくらべ野菜の上がつた食糧が108.7で5.8%の上昇、ちりめん、綿ネルの上がつた被服が、106.4で3.2%の上昇をした外は横ばいであつた。

5. 賃金、労働時間、雇用の動き

〔賃金の動き〕　9月の平均定期給与は、33,911で前月（33,406円）にくらべて1.5%の増となつた。平均特別給与は1,105円となり前月（2,046円）より941円の減となつた。

この結果、現金給与総額は、35,016円となり前月（35,452円）にくらべて1.2%の減となつた。

これらの数値を前年同月と比較すると、定期給与は3,531円（11.6%の増、現金給与総額では3,417円（10.8%）の増加となつた。

産業別に定期給与の対前年同月増加率をみると伸びの大きい順に建設業（26.2%増）製造業（16.0%増）運輸通信業（14.4%増）卸売小売業（10.6%増）、電気ガス水道業（8.3%増）鉱業（7.5%増）となつている。

〔労働時間の動き〕　9月の平均総労働時間数は199.4時間で前月にくらべて14.1時間（7.6%）の増となつた。

〔雇用の動き〕　9月の雇用水準を常用雇用指数（S40年＝100）によつてみると93.7であり前月にくらべ0.7%の減となつた。これを前年同月と比較してみると2.3%増となつている。

産業別に前年同月と比較すると、卸売小売業（17.1%）、製連業（6.5%）金融保険業（2.0%）電気ガス水道業（0.7%）がそれぞれ増となつており、総体で2.3%増となつた。なお、鉱業、建設業、運輸通信業は前月と同様昨年水準を下回つた。

1 通貨・手形・株式・百貨店・労働市場

年月	銀行券 増減(△)	手形交換高 枚数	手形交換高 金額	不渡手形実数 枚数	不渡手形実数 金額	株式取引高 株数	株式取引高 金額	県内百貨店売上高	労働市場 新規求職申込件数	労働市場 新規求人数	労働市場 就職件数
	百万円	千枚	百万円	枚	千円	千株	百万円	百万円	件	人	件
昭和38年	△ 988	311	101,448	5,974	319,101	281,326	41,000	3,770	45,615	51,423	24,034
39年	△ 5,614	355	142,640	8,828	796,395	166,210	19,185	4,341	43,724	55,018	24,833
40年	△ 7,200	380	147,872	10,404	847,229	300,719	34,771	4,799	42,433	42,684	20,693
41年	△ 1,345	436	163,444	9,901	835,514	314,579	46,589	5,472	41,509	54,084	20,587
41年 1月	△ 6,870	30	11,920	898	55,901	36,911	5,097	398	3,688	3,736	1,671
2月	△ 723	32	11,361	894	50,462	46,835	7,070	361	3,245	3,334	1,470
3月	1,068	36	12,855	953	56,292	45,622	7,084	453	3,566	4,042	1,719
4月	△ 525	34	14,391	770	52,685	25,009	3,940	442	3,494	4,655	1,769
5月	△ 1,277	34	12,081	859	71,634	28,004	4,185	357	3,757	3,933	1,734
6月	1,205	41	13,328	718	47,096	19,970	3,087	380	3,523	4,222	1,636
7月	△ 1,220	33	12,664	594	49,480	20,679	3,047	497	3,499	3,874	1,736
8月	△ 1,657	39	14,833	1,054	84,142	17,469	2,270	339	3,749	6,556	1,736
9月	△ 336	35	13,213	828	76,964	18,465	2,768	317	3,358	6,214	1,727
10月	1,755	35	15,565	742	79,641	15,831	2,236	463	3,692	5,963	1,905
11月	1,204	36	14,093	808	103,194	15,914	2,162	505	3,737	5,579	2,270
12月	6,031	51	17,140	783	108,023	23,870	3,643	960	2,201	2,976	1,514
42年 1月	△ 7,110	34	14,842	693	84,295	31,088	3,972	442	3,808	6,755	1,653
2月	△ 140	36	14,325	624	59,427	39,850	4,758	410	3,482	4,537	1,629
3月	2,276	40	16,875	748	83,047	20,802	3,181	541	3,951	5,596	2,063
4月	△ 796	34	16,215	423	43,279	14,672	2,033	509	3,604	6,074	1,630
5月	△ 1,306	44	16,097	1,120	103,168	30,527	4,787	424	3,678	6,128	1,709
6月	1,852	45	16,640	738	77,365	25,345	4,029	479	3,333	5,562	1,645
7月	△ 687	41	16,331	671	61,832	22,084	4,202	594	3,683	6,507	1,792
8月	△ 2,167	41	16,153	668	58,986	19,911	3,719	417	3,432	6,840	1,845
9月	△ 336	40	16,914	568	60,677	14,919	2,092	441	3,414	6,284	1,758
10月		40	17,765			18,314	3,527				

資料：手　形・株　式＝大蔵省水戸財務部
銀行券・百貨店＝日銀水戸事所務

2 消費者物価指数（水戸市）

	総合	食料	主食	外食	生鮮魚介	肉類	乳卵	野菜	加工食品
昭和38年平均	88.7	85.4	86.4	83.4	74.3	95.8	98.7	57.2	88.2
39	91.5	89.2	87.7	87.5	77.2	98.7	96.6	64.0	93.7
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	104.4	103.2	105.4	102.0	102.3	102.0	103.3	93.8	101.1
41年 1月	103.2	104.2	105.4	102.3	103.7	105.9	106.6	93.6	96.8
2月	104.1	106.2	105.4	102.3	110.5	106.3	114.0	64.1	98.3
3月	104.8	106.7	105.4	102.3	109.8	105.4	105.6	121.2	97.9
4月	105.1	105.7	105.1	102.3	108.1	105.5	104.1	126.7	101.4
5月	103.5	100.8	105.2	102.3	93.3	100.2	95.8	97.2	101.5
6月	104.0	101.7	105.2	102.3	99.8	100.5	101.9	93.6	102.7
7月	104.9	103.8	105.3	101.9	107.1	99.9	100.4	81.1	102.5
8月	103.2	99.8	105.3	99.3	98.8	99.3	98.4	63.7	102.8
9月	104.0	100.9	105.3	101.9	97.1	99.8	103.8	80.4	102.7
10月	105.7	104.2	105.3	102.3	94.1	100.1	106.2	111.9	102.7
11月	104.3	100.8	105.3	102.3	103.8	100.2	98.4	76.1	102.1
12月	105.7	103.7	106.1	102.5	101.0	101.4	104.3	86.1	102.2
42年 1月	106.5	105.5	106.1	103.8	112.5	101.4	102.3	121.8	101.5
2月	107.2	107.5	106.1	106.3	109.0	101.4	104.3	134.8	101.7
3月	107.2	107.9	106.2	106.3	113.0	102.1	104.3	131.6	101.3
4月	107.7	107.8	106.2	108.5	115.3	102.8	94.4	141.0	101.5
5月	106.3	104.4	106.2	109.8	114.5	102.9	92.9	104.9	101.6
6月	105.7	101.7	106.2	109.8	101.6	102.5	91.9	75.4	101.3
7月	105.3	100.8	106.0	109.8	112.9	104.3	99.6	54.8	101.4
8月	106.0	102.7	106.0	108.9	119.3	109.2	103.1	69.4	101.3
9月	108.8	108.7	106.0	108.9	138.8	111.5	107.5	114.7	102.5
10月	112.4	116.4	117.1	108.9	117.9	117.3	122.5	162.7	103.7

（つづき）

	被服	光熱	住居	家賃地代	設備修繕	家具什器	雑費	保健医療	教養娯楽
昭和38年平均	88.3	99.3	92.9	77.0	99.6	95.9	90.7	103.1	85.2
39	91.1	99.3	93.4	77.4	99.0	97.1	92.8	91.8	88.8
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	103.8	97.2	105.3	115.4	105.6	100.9	107.1	99.8	108.6
41年 1月	102.0	97.5	102.9	111.1	101.6	100.1	103.3	100.0	108.3
2月	102.0	97.5	103.1	111.6	101.7	100.1	103.6	100.0	109.0
3月	102.7	97.5	103.2	118.8	101.9	100.2	105.1	100.0	108.2
4月	102.5	97.5	104.4	111.5	101.9	102.7	107.0	100.0	108.2
5月	103.3	97.5	110.6	112.1	106.9	100.2	107.9	99.7	108.4
6月	103.3	97.5	105.8	117.8	106.9	100.4	108.0	99.7	108.7
7月	103.1	96.8	106.0	117.8	106.9	100.7	108.2	99.6	108.7
8月	102.3	96.8	106.3	117.8	107.3	101.0	108.0	99.6	108.1
9月	104.2	96.8	106.5	117.8	107.5	101.3	108.4	99.6	108.8
10月	106.7	96.8	106.6	117.9	108.0	101.3	108.4	99.6	10.7
11月	106.4	97.1	106.8	119.1	108.0	101.3	108.4	99.6	108.7
12月	106.7	97.3	106.9	119.0	108.2	101.4	108.9	99.6	110.3
42年 1月	106.3	67.4	106.9	118.7	108.4	101.4	109.2	101.0	111.1
2月	105.4	97.5	107.0	118.7	108.7	101.4	109.2	100.6	111.3
3月	104.2	97.5	107.1	118.2	109.3	101.4	109.2	98.8	111.2
4月	103.0	97.5	108.4	118.5	113.8	101.4	111.2	98.8	113.5
5月	101.5	97.5	109.7	122.1	115.6	101.6	111.2	98.8	113.7
6月	103.6	97.5	109.7	121.7	116.3	101.4	111.8	98.8	115.5
7月	104.2	97.8	109.5	121.5	115.9	101.3	111.7	98.8	115.0
8月	103.1	97.8	109.5	121.5	115.8	101.3	111.7	98.8	115.1
9月	106.4	98.0	109.5	121.6	116.7	100.8	111.7	98.8	115.0
10月	108.5	99.0	110.2	122.4	116.7	102.0	111.8	98.8	114.9

資料：県統計課

3 県内金融機関別預金残高

単位　百万円

	銀行	相互銀行	信用金庫	信用組合	農協	郵便局	商工中金その他	労働金庫
昭和41年 4月	187,971	28,682	24,392	15,352	26,856	51,735	9,616	2,310
5月	187,334	28,587	24,438	15,589	25,941	51,792	9,549	2,318
6月	190,156	28,991	24,656	15,907	26,027	52,759	9,828	2,466
7月	192,365	29,522	25,296	16,327	30,093	54,007	9,914	2,526
8月	193,568	30,035	25,476	16,458	30,438	54,579	12,039	2,560
9月	203,410	31,396	26,309	18,257	41,242	54,826	16,931	2,556
10月	203,265	30,813	26,927	17,181	40,614	56,040	17,139	2,548
11月	212,104	31,313	27,566	17,397	42,232	56,567	17,124	2,589
12月	214,900	33,408	29,528	19,911	41,189	59,822	18,055	2,865
42年 1月	211,506	32,697	28,903	18,447	44,191	61,349	17,069	2,879
2月	210,783	33,123	29,259	18,590	40,678	61,553	14,720	2,892
3月	221,912	37,424	30,516	20,887	36,369	61,897	14,197	2,956
4月	216,095	34,246	30,440	19,221	34,992	62,289	15,879	2,992
5月	219,947	34,262	30,698	19,501	33,929	62,434	16,379	3,029
6月	230,100	35,048	31,173	19,705	34,359	64,009	15,985	3,163
7月	232,991	35,417	32,123	20,361	39,176	65,874	25,221	3,216
8月	233,736	35,910	32,671	20,918	40114	66,837	15,342	3,296
9月	247,621	37,657	33,327	22,683	…	67,351	16,934	3,302

4 県内金融機関別貸出残高

単位　百万円

	銀行	相互銀行	信用金庫	信用組合	農協	商工中金その他	労働金庫
昭和41年 4月	112,416	20,290	16,995	14,067	13,699	8,480	1,441
5月	113,221	19,995	17,183	14,211	14,521	8,822	1,486
6月	113,580	20,391	17,679	14,404	15,267	10,185	1,486
7月	113,894	21,323	18,135	14,649	15,540	8,971	1,539
8月	112,302	21,614	18,566	15,122	15,594	9,041	1,578
9月	114,407	22,637	19,271	16,162	14,783	9,185	1,593
10月	103,659	22,991	19,733	15,799	14,255	9,317	1,624
11月	116,412	23,231	20,449	16,140	15,259	6,623	1,670
12月	122,899	24,311	21,613	17,494	15,487	9,362	1,786
1月	121,541	29,891	21,652	16,813	20,825	9,706	1,761
42年 2月	123,688	24,679	21,968	17,080	20,065	9,684	1,745
3月	125,965	25,103	22,715	17,911	17,030	13,813	1,855
4月	122,726	25,139	22,874	17,286	18,037	11,727	1,868
5月	123,941	25,273	23,274	17,446	18,892	13,738	1,884
6月	129,584	25,658	23,506	17,681	19,770	18,277	1,875
7月	131,458	25,704	24,139	18,026	20,082	12,356	1,926
8月	133,782	27,213	24,684	18,430	19,921	13,358	2,007
9月	136,651	27,750	25,425	19,588	…	9,980	2,019

資料：大蔵省水戸財務部

5 産業別推計労働者数・平均

	調査産業総数			鉱業		
	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額
昭和39年	170,131	194.3	29,278	10,828	199.5	34,325
40年	171,390	189.3	32,366	10,249	198.5	37,189
昭和41年	171,681	191.7	36,535	9,833	199.8	39,481
1月	170,805	181.2	33,207	10,654	200.3	33,821
2月	170,147	193.9	27,376	10,650	195.8	32,652
3月	170,693	185.2	29,099	10,677	205.6	34,070
4月	172,940	196.1	28,507	10,376	192.1	32,218
5月	171,541	181.0	30,275	10,352	196.4	33,927
6月	170,633	198.3	52,010	9,455	203.3	44,863
7月	170,408	196.3	31,299	9,338	201.9	38,504
8月	170,611	189.2	38,771	9,299	192.6	41,458
9月	170,637	196.1	30,650	9,238	201.5	33,749
10月	172,087	188.7	30,823	9,147	201.5	35,981
11月	174,511	195.9	30,437	9,359	201.5	35,525
12月	175,218	198.9	75,970	9,453	205.4	77,001
昭和42年1月	142,932	178.2	33,801	12,942	194.5	36,713
2月	143,380	194.1	31,292	12,815	164.9	36,135
3月	143,806	187.1	32,519	12,658	200.3	36,968
4月	146,907	197.2	32,209	12,312	189.8	35,203
5月	144,932	183.4	33,776	10,755	188.5	35,670
6月	144,450	206.3	63,365	11,494	193.7	50,614
7月	146,891	178.2	45,834	11,263	189.6	43,655
8月	146,703	185.3	35,452	11,311	183.4	55,662
9月	145,720	199.4	35,016	11,194	196.7	37,785

	卸売小売業			金融保険業		
	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額
昭和39年	8,653	193.6	26,512	5,548	186.5	36,928
40年	9,126	200.6	32,612	5,872	184.8	40,897
昭和41年	9,354	200.7	35,301	5,890	181.8	42,846
1月	9,062	195.3	27,276	6,001	172.5	27,937
2月	9,029	206.8	29,134	5,818	171.8	27,205
3月	9,282	188.7	27,626	5,936	192.3	43,205
4月	9,379	203.4	30,417	6,046	186.3	34,016
5月	9,563	188.9	28,132	5,918	171.1	29,177
6月	9,517	204.9	44,649	5,927	189.2	46,059
7月	9,417	202.1	41,340	5,915	178.0	56,537
8月	9,381	203.9	31,020	5,814	190.6	31,527
9月	9,290	196.1	29,983	5,943	178.6	43,848
10月	9,398	201.3	28,712	5,864	180.7	36,670
11月	9,416	203.6	28,843	5,718	174.2	30,202
12月	9,420	213.7	76,479	5,786	195.9	07,730
昭和42年1月	5,979	185.9	23,650	4,441	158.5	140,296
2月	5,899	180.8	24,095	4,605	166.7	30,818
3月	5,991	183.3	22,958	4,582	165.9	43,716
4月	6,838	202.1	24,569	4,648	177.0	35,548
5月	6,713	180.8	24,286	4,470	159.3	31,728
6月	6,660	218.2	42,541	4,563	179.3	57,554
7月	7,508	198.9	30,630	4,602	178.7	52,035
8月	7,438	176.8	25,541	4,641	181.5	34,862
9月	7,366	191.6	26,156	4,661	173.3	51,339

資料：県統計課

労働時間および平均月間給与額

県統計課

建設業			製造業		
本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額
7,455	184.3	28,546	111,864	193.5	26,925
7,952	184.3	32,388	111,318	187.6	29,520
8,457	182.4	33,306	110,303	191.8	33,954
8,630	180.2	28,158	109,203	175.9	33,831
8,860	187.9	27,381	108,595	196.5	25,120
8,008	185.7	32,014	108,453	182.8	24,875
8,415	178.7	27,002	110,596	199.6	26,257
7,809	161.0	26,729	109,998	179.0	29,488
7,586	178.3	41,101	110,287	202.4	52,923
7,924	193.2	31,025	109,990	197.0	35,166
8,008	193.4	29,657	110,080	186.2	28,001
7,824	178.1	28,301	110,167	199.4	28,940
8,212	177.5	28,425	111,338	187.8	28,429
9,416	189.7	28,761	112,460	197.3	29,399
9,794	183.8	71,119	112,471	198.0	65,015
5,056	157.9	24,324	67,328	176.6	33,278
5,469	164.3	26,233	97,410	198.7	30,097
5,276	94.7	36,122	98,229	190.9	29,593
4,796	149.8	25,905	100,949	202.6	31,048
3,631	140.4	27,356	100,731	184.9	33,722
3,653	174.8	59,896	100,836	210.8	64,382
4,114	172.0	35,751	102,040	202.3	45,427
3,819	171.0	33,139	102.091	184.8	35,894
3,512	176.7	32,285	101,868	203.5	34,394

運輸通信業			電気・ガス・水道業		
本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額
24,223	198.1	36,744	1,550	180.7	48,292
25,062	193.1	40,978	1,749	181.0	51,871
25,883	192.1	46,082	1,896	177.8	57,210
25,474	194.7	34,977	1,715	167.1	38,591
25,420	185.7	33,503	1,712	174.3	38,308
25,495	184.2	40,116	1,727	176.6	46,986
26,118	192.9	33,949	1,949	187.9	44,171
25,888	189.0	33,394	1,951	172.6	42,492
25,854	191.5	62,329	1,943	186.1	127,459
25,792	195.3	50,854	1,967	181.7	48,268
25,996	195.8	37,085	1,967	180.7	42,577
26,047	191.2	37,897	1,964	176.2	45,680
26,106	190.2	38,395	1,958	175.5	43,535
26,127	194.0	36,728	1,752	172.6	45,176
26,280	200.4	113,762	1,952	182.0	123,278
14,445	188.9	37,120	2,363	155.0	52,066
14,421	192.2	36,433	2,364	166.6	50,695
14,302	194.6	43,533	2,336	178.7	55,140
14,584	193.2	37,778	2,368	170.7	56,077
14,482	187.6	36,690	2,420	179.8	50,519
14,428	198.1	63,314	2,403	189.5	157,833
14,559	195.6	49,836	2,398	186.5	54,521
14,617	199.3	39,272	2,377	183.8	58,543
14,335	195.6	40,128	2,369	178.6	60,239

6 主要品目の都市別小売価格（平均）

県統計課

	単位	水戸市		日立市		土浦市		下館市		古河市	
		42年9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月
〔食料費〕											
うるち米（非配給）	1 kg	129	140	120	145	120	139	130	146	130	150
もち米（〃）	〃	157	165	145	171	130	171	150	155	170	180
食パン	〃	104	108	99	99	108	108	105	105	120	120
即席ラーメン	1 袋	24	24	24	24	25	25	25	25	30	30
まぐろ	100 g	103	108	100	100	97	100	63	68	—	—
かつお	〃	34	33	24	26	29	30	21	25	30	30
さけ	〃	49	56	40	40	53	59	50	50	—	—
さんま	〃	39	27	21	19	19	20	15	16	25	23
いか	〃	19	17	18	20	19	21	20	17	15	12
たこ	〃	45	44	39	39	38	43	44	39	50	50
塩さけ	〃	73	66	66	66	75	75	70	70	52	52
牛肉（中）	〃	93	100	98	103	170	173	122	122	140	140
豚肉（中）	〃	73	73	65	66	71	73	70	70	78	78
ハム	〃	66	66	60	60	56	55	59	59	65	65
牛乳	1 本	20	25	17	17	20	20	22	22	20	25
鶏卵	100 g	22	23	23	25	21	23	23	23	24	24
キャベツ	1 kg	70	53	68	68	33	50	44	29	40	30
ほうれん草	100 g	22	18	20	17	10	15	18	11	16	14
大根	1 kg	60	95	55	58	31	78	43	43	34	32
玉ねぎ	100 g	10	9	6	7	8	10	7	7	7	7
豆腐	〃	7	7	8	8	7	7	6	6	8	8
〔住居費〕											
家賃（民営）	3.3 m²	624	629	323	323	427	429	425	430	386	379
〔光熱費〕											
プロパンガス	10 kg	750	750	850	850	600	600	600	600	700	700
〔被服費〕											
背広冬服	1 着	17,833	17,833	14,167	15,267	15,333	15,333	16,500	16,000	13,500	13,500
せんたく代（ワイシャツ）	1 枚	50	50	43	43	48	45	50	50	50	50
〔雑費〕											
理髪料	1 回	350	350	335	373	390	390	400	400	400	400
パーマネント代	〃	800	838	800	800	800	800	800	800	750	750

7 茨城県鉱工業生産指数

年月	産業総合	公益事業	鉱工業	鉱業	石炭鉱業	金属鉱業	非金属鉱業	製造業	鉄鋼業	非鉄金属工業	一般機械	電気機械
昭和36年	126.5	96.9	126.6	102.9	101.8	103.8	120.1	129.7	128.5	140.2	155.8	143.8
37年	126.1	97.2	126.3	103.5	99.1	112.6	124.8	129.3	128.5	107.9	145.7	141.7
38年	140.8	84.1	141.2	105.8	101.8	113.9	139.5	145.7	133.8	138.8	169.2	145.1
39年	163.5	104.1	164.0	110.0	105.1	113.9	185.2	170.9	169.3	200.0	158.5	181.2
40年	180.5	109.4	180.9	109.4	101.2	111.6	176.6	190.6	159.0	193.8	159.0	251.2
41年	201·6	303.3	201.0	118.1	117.7	114.9	152.0	211.8	183.1	211.2	192.2	279.3
41年 4月	206.1	356.1	205.2	112.5	109.5	113.7	165.1	217.2	216.5	261.7	198.9	262.2
5月	195.6	102.4	196.2	107.4	104.8	106.9	168.1	207.6	206.6	242.1	122.2	257.9
6月	205.3	99.7	206.0	107.6	105.5	110.4	130.2	218.6	254.9	286.1	213.6	238.8
7月	216.2	498.2	214.5	119.4	116.7	121.6	160.5	226.8	185.9	210.8	168.2	376.0
8月	225.2	631.2	222.8	102.7	97.2	115.6	120.7	238.3	143.9	191.1	77.3	468.8
9月	182.3	482.1	180.5	110.4	105.7	118.8	154.4	189.6	199.6	171.2	308.2	201.6
10月	168.1	564.6	165.8	121.2	119.0	122.0	163.6	171.5	185.1	221.8	80.6	207.8
11月	177.1	126.9	177.4	127.3	128.0	120.6	163.3	183.9	203.4	239.2	86.2	216.2
12月	194.5	396.7	193.2	134.1	137.0	120.6	176.9	200.9	175.6	237.2	157.3	223.1
42年 1月	225.8	575.8	223.7	123.7	129.4	104.0	153.6	236.6	169.6	224.8	432.8	222.7
2月	186.9	606.0	184.4	118.6	122.9	103.3	144.9	192.8	205.1	228.1	115.2	185.6
3月	235.4	597.5	233.2	132.8	136.1	119.1	165.5	246.2	195.1	263.8	255.4	254.4
4月	206.1	356.1	205.2	112.5	109.5	113.7	165.1	217.2	216·5	261.7	198.9	262.2
5月	195.6	102.4	196.2	107.4	104.8	106.9	168.1	207.6	206.6	242.1	122.2	257.9
6月	205.3	99.7	206.0	107.6	105.5	110.4	130.2	218.6	254.9	286.1	213.6	238.8

（つづき）

年月	輸送用機械	精密機械	窯業	化学工業	石油石炭製品	皮革工業	紙及パルプ	繊維工業	製材	食料品工業	たばこ工業	その他の工業
昭和36年	193.6	155.5	100.3	107.0	96.2	117.9	120.5	142.3	106.8	105.9	81.8	130.2
37年	215.1	653.3	98.8	90.8	94.5	172.1	149.7	165•2	112.6	119·0	74.0	114.2
38年	266.7	1,064.8	100.7	94.3	77.5	220.3	162.2	176.7	108.0	122.7	72.0	162.2
39年	318.0	1,260.0	120.7	97.2	70.0	255.8	175.4	144.7	128.2	126.2	56.9	169.6
40年	295.3	1,175.9	122.9	80.4	71.8	276.5	174.8	169.6	123.2	130.1	37.8	253.0
41年	330.2	1,137.9	128.7	99.5	67.1	290.8	216.4	159.3	133.4	140.3	27.0	282.1
41年 4月	429.5	1,096.9	145.3	101.9	56.3	318.7	244.2	143.7	124,5	125.3	15.2	322.2
5月	369.9	1,264.4	119.6	118.2	54.1	317.3	184.7	193.2	114.4	171.8	12.3	315.2
6月	557.5	1,443.4	121.8	124.3	53.1	325.4	245.3	160.0	117.8	101.1	12.7	290.0
7月	335.4	1,082.9	121.4	113.2	63.1	270.0	227.2	132.3	146.2	97.2	21.8	241.4
8月	324.8	971.8	136.5	117.5	61.2	275.8	220.0	166.0	117.6	97.2	11.5	265.0
9月	334.4	1,175.2	129.8	117.1	60.4	250.6	223.5	229.5	147.7	93.2	24.4	244.4
10月	337.9	1,012.7	119.2	93.2	63.1	291.2	231.4	177.7	152.0	66.4	24.5	280.7
11月	376.5	1,179.7	143.2	108.4	61.3	279.8	207.4	173.7	127.8	78.5	22.1	326.9
12月	420.5	1,133.7	173.1	92.7	69.7	376.4	231.2	183.9	138.4	124.2	22.3	349.9
42年 1月	337.0	1,038.9	103.5	102.8	70.3	445.3	225.8	159.0	138.0	280.9	19.2	342.5
2月	384.0	1,165.7	152.7	109.0	64.9	302.4	241.7	182.6	141.4	265.1	18.5	233.5
3月	394.0	1,391.0	148.6	115.9	70.4	388.3	248.5	182.6	138.0	331.6	18.7	321.3
4月	429.5	1,096.9	145.3	101.9	56.3	318.7	244.2	143.7	124.5	125.3	15.2	322.2
5月	369.9	1,264.4	119.6	118.2	54.1	317.3	184.7	193.2	114.4	171.8	12.3	315.2
6月	557.5	1,443.4	121.8	124.3	53.1	325.4	245.3	160.0	117.8	101.1	12.7	290.0

資料：県統計課

川柳 統計漫歩

田中二三四

(30)

"厳かに統計大会の幕開らく"

菊香る11月10日、県民文化の殿堂千波の丘にそびえる文化センターに、第9回茨城県統計大会が開催された。この大会は県下の統計マンにとつて唯一の集いであり。統計意識の向揚と統計思想の普及向上のため毎年実施されているもの、午前10時30分この意義深い統計の祭典は石崎統計課長の開会のことばによつて厳粛裡に開かれた。

"この佳き日ここに統計マンの意気"

統計大会は、県下市町村をはじめ、各分野にわたる統計関係者700人が参集して行なわれるもので、当日は約7千人におよぶ統計マンの代表として県内各地から定刻までにはぞくぞくと会場につめかけ受付氏もテンテコ舞い。現代社会の要請に応える統計の重要性がまだ一般に理解され難い現状において統計調査に従事する人達の労苦は並大ていではないだろう。この日ばかりは同じ統計にたずさわる同志の集いとして終始和やかに、有意義な日を過したのである。

"統計の苦労笑顔となる受賞"

当日は、統計という目立たないそして重要な仕事に黙々として従事されている関係者に対して、長い間のご苦労とその業績を称えるため知事をはじめとし統計協会総裁、各省関係からの表彰状の伝達など数々の受賞が行なわれた。統計調査員の方々は10年以上この道に励んで来られた方々、平素の努力がむくいられ、この席上輝やかしい表彰となつたもの、本当におめでとう。

"統計の夢を育てるグラフ展"

統計大会の会場に、第15回の県統計グラフコンクール入選作品が展示されて参会の統計マンの目を楽しませてくれた。このグラフ展は、毎年統計思想の普及と統計技術の研さんに資するために小、中、高校生を対象に募集しているもので、子供達が夏休みに自分達が観察した資料を基にして作図したもので、統計的な見方、考え方を育てる統計教育の一環として行なわれているものである。

"グラフ展入選小っちゃな受賞の子"

統計グラフの入選者こ対して統計大会の席上表彰が行なわれた。知事、教育長、統計協会長からそれぞれ代表の子らに、知事賞代表は助川小の一年生福田さん、"登場するに大人のかげからチョコチョコと"そして大きな賞状が手に余まりそう。万場のほほ笑、一層の和やかさを添えた。

"満場の拍手に宣言文決議"

統計大会も大詰、加藤木桂村総務課長によつて統計マンの決意を内外に宣言するための決議文が高らかに朗読され満場の拍手のうちに決議された。本年度の決議は、統計智識の研さんにつとめ社会の要請と期待に応える。利計利用の向上。統計を通じ郷土発展と、県民相互の理解に貢献しようとする三点であつた。

"万才三唱して祭典の幕が下り"

稲敷郡の糸賀美浦村長の音頭により満場の参会者の万才三唱によつて第9回茨城県統計大会は、厳粛に終始和やにこの意義深い統計マンの祭典の幕を閉じたのである。

"舞い扇踊る肢体の線たしか"

大会終了後のアトラクションは、華やかに岩井流の岩井貴彰氏社中による"日本の郷愁"と題する一般の大象に親しみ易い、民謡とか歌謡曲入りの踊りでみんなが知つているものを主に構成したもので参会者の手拍子も混じつて楽しい雰囲気のうちに進められていつた。

11月の思考

横須賀弘

〝ゆりかごから墓場まで〟これは戦後の英国社会保障政策をバラ色化して当時の政治家も、社会革命家も、それに国民全体が讃美し続けたことは耳新しい記憶である。またわが国人口政策上論議の中心となつている昨今の産兒制限も英国が先輩であり、現代ニュースタイルの教典ともいうべきミニスカートもまたイギリスに発生した。戦後あらゆる階層で「アチラ」の真似をすれば天下御免と日本街道をまかり通る思考的破産が今日も続くであろう。しかし、今更経営難に陥ちいつた老大国の二の舞いを繰返すこともあるまい。モズも結構、ミニスカートもまたよろしかろう。だが、今の日本には坐して沈思すべき現象があまりにも多い。11月23日は勤労感謝の日、この祝を有意義に過したいものである。

これからは1年を通して最も華麗な星座群をみることができる。かつて、私の軍隊生活の冬季の日課のなかに星の講議でしぼられた経験がある。身をとおして寒気を骨に感じて1時間も2時間も澄みきつた天心のなかから課せられた星座をさがし続けた苦しい回想も今は楽しい。

今宵も空を仰げば天の北に極君臨する北斗七星のあるおおぐま座、心臓の星アンタレスを赤く無気味に輝やかせた巨大なさそり座、その西にてんびん座がある。このてんびん座のことをラテン語でライブラ(Libra)という。この頭文字のLはかつて世界の標準通貨として不動の強勢を誇つた〝ポンド〟の略号でもある。ところがこのてんびんもバランスを失い、ポンド切り下げという経済の苦境にあえいでいるのである。この措置に対応してドル流出の防止を策してアメリカでも公定歩合の0.5%引き上げを表明し、わが国でも日銀宇佐美総裁が国際収支改善策を強調したほか、東京株式では史上最高の1,273円33銭と一挙に1,300円の大台を割り込み、株界をてんやわんやに迫い込んでしまつた。かと思へば今朝の新聞では、県内における冬のボーナス支給総額は154億円、昨年冬に比べ18.5%の伸びであると金融筋では予想を立てている。いやはや11月はまことせわしない月でもある。

(11月21日)

統計臨時ニュース

42年度教育統計功績者表彰

木口光男氏
田村　恵氏　に輝く!!

文部省が毎年教育統計の能率増進、成績の向上創意工夫等に顕著な功績のあつたものに対し、表彰を行なつているが、42年度は、先に推せんのあつたものの中から、全国で、個人表彰13名、(うち都道府県庁関係3名)、を決定した。

本県では、県統計課人口学事統計係長木口光男氏、教育委員会田村恵氏の2氏が、受賞した。両氏共に、本県教育統計において、木口氏は学校基本調査、保健調査等文部省の主管する学事統計に、田村氏学校に直結する教育委員会の立場で、長年の経験を生かし周到な計画と適切な指導等、大きな功績があつたことが認められたものである。今後とも、両氏の活躍を期待すると共に、本県教育界の発展に教育統計が大ハに活用されることを、二氏の受賞のよろこびと共に、希望する。